

いのち まも こうどう 命を守る行動について、クラスや家族で話し合ってみよう！

①過去に地域で洪水やがけくずれが起きた場所はどこですか。

②家や学校の近くの危ない場所はどこですか。

③家族との連絡方法を決めていますか。

わが家の避難マップを作成してみよう！

◆自宅周辺の災害危険箇所、避難場所・避難経路を確認し、避難マップを書いてみよう！

作成後は、冷蔵庫など家族みんなが目にする場所に貼っておこう。

災害の種類	危険箇所	避難場所	避難経路上の危険な場所
土砂災害	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし		•
洪水	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし		•
高潮	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし		•

わが家の避難マップ

ハザードマップ、避難場所を知りたい場合は、防災・減災のポータルサイト「はじめの一步」で確認！
 防災・減災に関する各種情報も発信しています。詳しくはホームページをご覧ください。

お問い合わせ 広島県危機管理監 減災対策推進担当
 〒730-8511 広島市中区基町10番52号
 TEL:082-513-2781 FAX:082-227-2122

減災 はじめの一步 検索



ひろしまけん 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動実施中！

「災害死ゼロ」を目指して
 減災のキーパーソンはあなたです



しょうがくせい こうがくねん よう 小学生(高学年)用

ひろしまけんぼうさい 広島県防災キャラクター
 『タスケ三兄弟』

ふうすいがい どしゃさいがいへん 風水害・土砂災害編

さいがい いのち まも 災害から命を守るために！

毎年、6月はじめの梅雨入りから秋にかけて、梅雨前線や台風などの影響により多くの雨が降ります。広島県でもこれまでに、山やがけがくずれる土砂災害などが発生しています。大雨がもたらす被害について知り、危険が迫った時には、正しく判断して行動できる力をつけ、災害から大切な命を守りましょう。

◎大雨や強風がもたらす被害とは？

大雨がもたらす被害としては、土砂災害や洪水による被害があります。また、台風などにより高潮の被害が発生することもあります。特に、広島県は土砂災害危険箇所数が約32,000か所と全国で最も多い県となっているため、土砂災害への注意が必要です。

土砂災害

大雨などにより、山やがけがくずれ、大量のどろや木、大きな岩が一気に流れてくることでおこる災害です。
 家や田畑や道路をこわし、人の命までうばってしまうことがあります。
 「土石流」「がけくずれ」「地すべり」などがあり、なかでも「土石流」「がけくずれ」はスピードが速く、起きてから逃げ回することは非常に困難です。



昭和42年7月(死者159名)
 がけくずれ [呉市]



平成26年8月(死者77名)
 土石流 [広島市]

洪水

大雨によって川などがあふれることでおこる災害です。ていぼうをこえた水が流れ込み、家や田畑などが水につかいます。



平成26年8月
 川のはんらん [三原市]

高潮

海面が高くなり、海水が流れこむことでおこる災害です。道路や家などが海水につかいます。



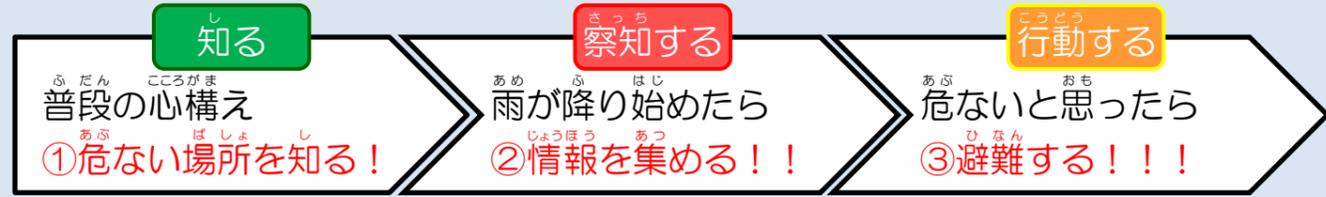
平成16年9月
 台風18号による高潮 [三原市]

◎大雨による災害から命を守るためには

早めの避難を心がける

大雨による災害から命を守るために大切なことは、「**早めに避難すること**」です。いざという時に備えて、「身を守るための3ステップ」を確認し、準備しておきましょう。

身を守るための3ステップ



①危ない場所を知る!

身の周りの危ない場所の確認方法は?

地域のハザードマップを確認しておくことで事前に身の周りの危ない場所を理解することができます。

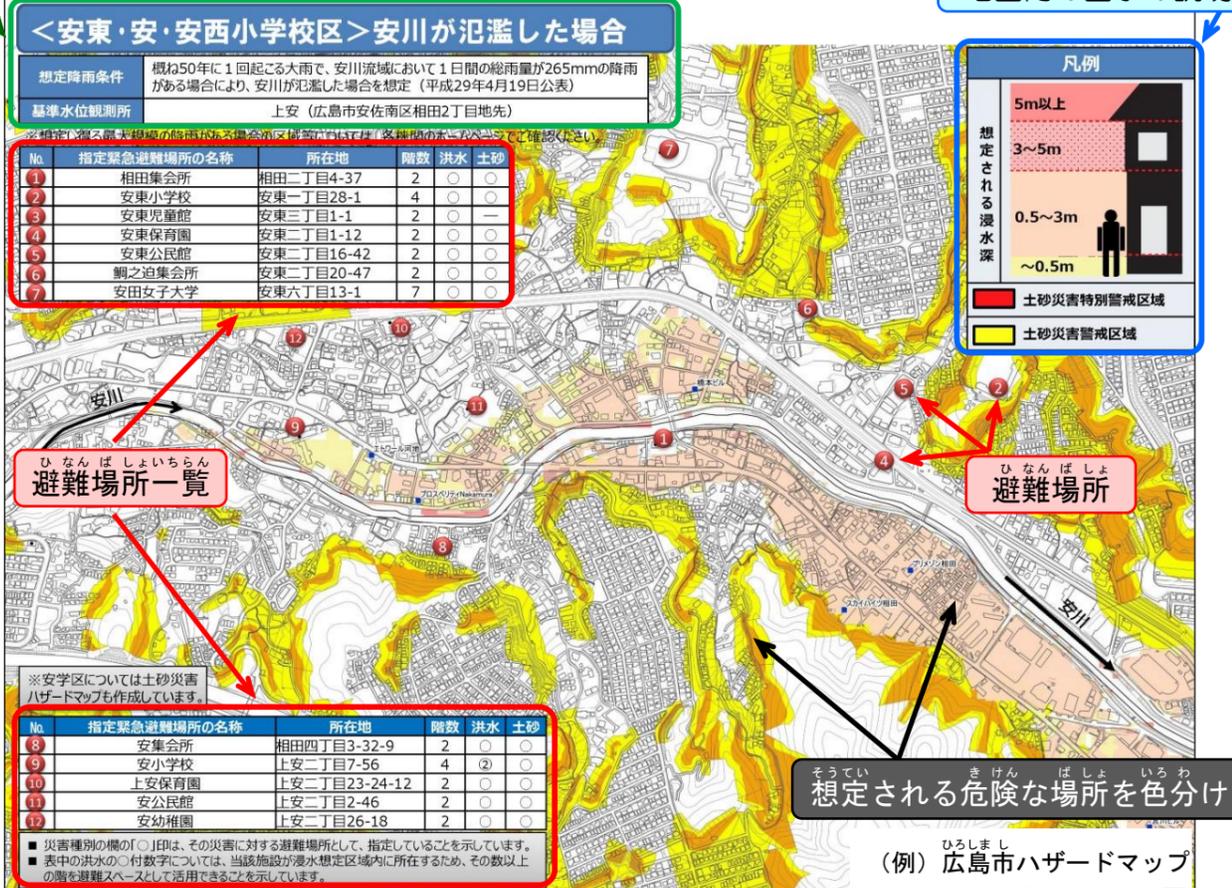
◆ハザードマップとは◆

ハザードマップとは、土砂災害や洪水、高潮などで「今後起こりうるかもしれない被害」の予測や避難場所などを、地図上で見るようにしたものです。

ハザードマップは各市町から各家庭に配布されたり、市町のホームページなどで公開されています。

地域名、ハザードマップの種類など

地図内の図示の説明



想定される危険な場所を色分け

(例) 広島市ハザードマップ

ハザードマップの確認と合わせて、避難場所の確認やそこまでの経路についても考えてみましょう。また、いざという時のために、家族との連絡の取り方も決めておきましょう!

②情報を集める!!

雨のつよさ・降りかたと災害の危険性を知ろう!

風水害や土砂災害の多くは、雨がきっかけになって起こります。

この表は、雨の強さや降りかたと災害の危険性を示したものです。ふだんから雨の様子に注意し、危険と判断すれば避難することが大切です。

予報用語 1時間の雨量 (mm)	人の受ける イメージ	人への影響と 屋外の様子	災害の危険性
やや強い雨 10mm以上～20mm未満	ザーザーと降る。	地面からはね返りで足元がぬれる。地面一面に水たまりができる。	長く続くときは注意が必要です。
強い雨 20mm以上～30mm未満	どしゃ降り	かさをさしていてもぬれる。	みぞや水路、小さな川があふれる。小規模のがけくずれのおそれがある。
激しい雨 30mm以上～50mm未満	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。	山くずれ・がけくずれが起きやすくなる。
非常に激しい雨 50mm以上～80mm未満	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	かさはまったく役に立たなくなる。	地下室や地下街に雨水が流れ込む。土石流が起こりやすい。
猛烈な雨 80mm以上	息苦しく感じる。恐怖を感じる。	水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	大規模な災害が発生するおそれ強い。

※降り始めからの総雨量や、地形・地質等のちがいによって被害の様子は異なります。

③避難する!!!

明るいうちに早めに避難!

台風の接近や、大雨が夜に予想されているときは特に注意が必要です。暗くなってから、大雨の中を避難するのは危険です。危険を感じたら、**明るいうちに早めに避難**しましょう。

避難する時の注意点は?



避難の時は、なるべく家族と一緒に行動する。一人で避難することになった場合に備えて、待ち合わせ場所を決めておく。



雨が降ってきたときは、すぐに川などの水辺や山のそばからはなれる。避難するときも、川やがけには近づかない。



にごった水は深さがわからないので、棒やかさなどで地面を確かめながら避難する。

台風などは、地しんとちがっていつごろくるのか、まもって知ることができるよ

避難のよゆうがない時の命を守る行動は?

激しい雨が降っている時や夜中など、外へ避難することが危険な時は、自宅の2階以上のがけから遠い部屋か近くのじょうぶな建物へ避難しましょう。